

THOMAS

トーマス・ルフ展

開催のお知らせ

東京会場

2016年8月30日(火)―11月13日(日)

東京国立近代美術館

金沢会場

2016年12月10日(土)―2017年3月12日(日)

金沢21世紀美術館

展覧会公式ホームページ

<http://thomasruff.jp>

RUFF

トーマス・ルフ

トーマス・ルフ展とは

トーマス・ルフ(1958年ドイツ, ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ)は, アンドレアス・グ
ルスキーやトーマス・シュトゥルトらとともにデュッセルドルフ芸術アカデミーでベルント&
ヒラ・ベッヒャー夫妻に学んだ「ベッヒャー派」として, 1990年代以降, 現代の写真表現を
リードしてきた存在です。

本展はその世界が注目する写真家の, 初期から初公開の最新作までを紹介する展覧会で
す。ルフは初期に発表した高さ約2メートルにもなる巨大なポートレート作品で注目されま
した。それ以降, 建築, 都市風景, ヌード, 天体などさまざまなテーマの作品を展開, それら
を通じ, 現代人を取りまく世界のあり方についてのユニークなヴィジョンを提示してきました。

私たちの視覚や認識に深く組みこまれた写真というメディアそれ自体も, ルフ作品の重要な
テーマのひとつです。ルフは自ら撮影したイメージだけでなく, インターネット上を流通する
デジタル画像からコレクションしている古写真まで, あらゆる写真イメージを素材に用い,
新たな写真表現の可能性を探究しています。

作品選択や展示構成にルフ自身が参加するなど, 作家の全面的な協力を得て実現する今回
の展覧会では, 未発表の新作を含む作品世界の全貌を紹介します。

トーマス・ルフ展のみどころ

■日本では初めての本格的回顧展

ルフ作品は1990年代から日本の美術館やギャラリーで紹介されてきましたが、美術館で開催される本格的な回顧展は今回が初となります。待望されていた日本国内での個展が、ついに実現します。

■初期から最新作まで、主要シリーズで作品世界を紹介

本展は初期作品である「Interieurs」や評価を高めた「Porträts」、少年時代からの宇宙への関心を背景とする「cassini」や「ma.r.s.」、インターネット時代の視覚・情報空間を問う「nudes」や「jpeg」など、全18シリーズ、東京会場約125点、金沢会場約160点の作品で構成されます。

■最新作「press++」シリーズでは、本展が世界初公開となる作品も

ある新聞社のプレス写真アーカイブを入手したことから着想された「press++」。かつてのメディア空間で使用されていた紙焼写真とそれにもなう文字情報を素材に生まれた最新作です。本展では読売新聞社から提供されたプレス写真を素材とした世界初公開となる作品も発表されます。

Series(Original) シリーズ名(オリジナル)	Series(English) シリーズ名(英語)	和訳 ※単独での使用不可(注)
Interieurs	Interiors	室内
Porträts	Portraits	ポートレート
Häuser	Houses	ハウス
Sterne	Stars	星
Zeitungsfotos	Newspaper photos	ニューズペーパー・フォト
Nächte	Nights	夜
andere Porträts	other Portraits	アザー・ポートレート
Stereofotos	Stereo-photos	ステレオフォト
l.m.v.d.r.	l.m.v.d.r.	l.m.v.d.r.
nudes	nudes	ヌード
Substrate	Substrates	基層
jpeg	jpeg	jpeg
zycles	zycles	zycles
cassini	cassini	カッシーニ
ma.r.s.	ma.r.s.	ma.r.s.
photogram	photograms	フォトグラム
negatives	negatives	ネガティブ
press++	press++	press++

(注)オリジナルシリーズ名の直後に()として和訳を表記してください。

トーマス・ルフ 略歴

1958年、ドイツ、ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ。

1977年から85年までデュッセルドルフ芸術アカデミーでベルント&ヒラ・ベッヒャー夫妻のもとで写真を学び、ドイツ人家庭の典型的な室内風景を撮り続けた「Interieurs(室内)」シリーズを皮切りに、友人たちの肖像を巨大なサイズに引き伸ばした「Porträts(ポートレート)」で大きな注目を集めました。以来、建築、都市風景、ヌード、天体などさまざまなテーマで作品を制作し、明確なコンセプトに基づいたシリーズとして展開しています。

1990年代以降は写真作品にデジタル処理を導入するとともに、インターネット上に氾濫する画像にマニピュレーションを加えた「nudes」「jpeg」といったシリーズ、あるいは探査機がとらえた火星などの天文写真に加工を施す「cassini」「ma.r.s.」など、他者が撮影した写真を素材としてイメージそのものの再構築を試みます。このようにルフは一貫して写真というメディアの特性である情報性と表現性への検証を通じて、私たちが抱いている写真に対する既成概念に揺さぶりをかけ続けてきました。また、教育者としても2000年にデュッセルドルフ芸術アカデミーの教授に就任し、2006年まで教鞭をとりました。

展覧会ではドクメンタ9(1992年)、ヴェネツィア・ビエンナーレ(1995年)など国際展への参加をはじめ、2001年から04年にかけてヨーロッパを巡回した回顧展や2012年のハウス・デア・クンスト(ミュンヘン)での大規模な個展を開催するなど、今日に至るまで世界各国での展覧会が開催され、現代ドイツを代表する写真家として活躍しています。



出品される主なシリーズの紹介



Porträts

一見ありふれた証明写真のようにも見えるポートレート。しかし巨大なサイズ(210×165cm)に引伸ばされた作品の前に立つと、そうした印象は一変します。ありふれた人物写真が、どこか不可解で不可思議な存在にすら見えてくるとすれば、そこには写真というメディア独自のメカニズムが働いているのではないのでしょうか。ルフの評価を高めた初期作品は、シンプルな手法でさまざまな問題を提起します。巨大なカラープリントという現代写真のフォーマットの先駆となったシリーズでもあります。

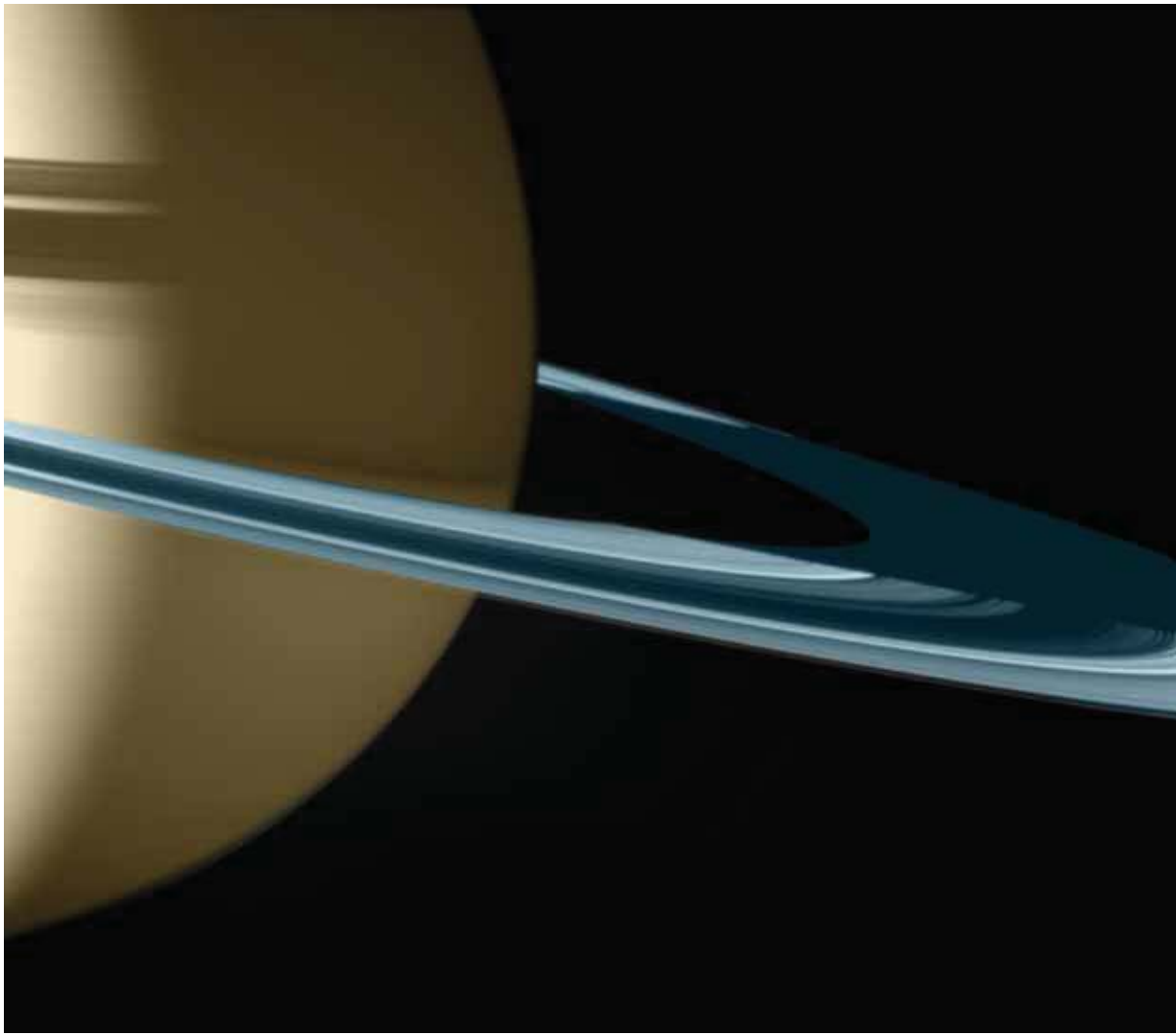
《Portrait (P. Stadtbäumer)》1988年
C-print, 210×165cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



I.m.v.d.r.

「I.m.v.d.r.」とは、モダニズム建築を代表するドイツ出身の建築家ルードヴィッヒ・ミース・ファン・デル・ローエの頭文字。ルフはある美術館からミースの建築の撮影を依頼され、さらにミースのある時期の全建築作品を撮影するプロジェクトをてがけます。その過程で、ルフはすでに撮影されたミース建築の写真を徹底的に研究し、そのうえで自ら撮影し、あるいは既存の写真を収集し、さらにはそれらのイメージをデジタル処理することで、この近代建築の巨匠についての視覚的な探求を試みました。

《w.h.s. 01》2000年
C-print, 185×245cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



cassini

ルフは少年時代から一貫して宇宙への関心を抱き続けています。2008年に発表された「cassini」はNASA（アメリカ航空宇宙局）などが1997年に打ち上げた宇宙探査船cassiniが撮影した土星とその衛星の画像を素材にした作品。ときに抽象的、幾何学的なデザインのようにも見える天体のイメージは、インターネット上で公開されている画像の色彩やトーンを操作することで生み出されたものです。

《cassini 10》2009年
C-print, 98.5×108.5cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



ma.r.s.

「ma.r.s.」もまたNASAの探査船が撮影した画像を素材とする作品です。2006年以来火星を周回する探査船のカメラは、火星の表面のさまざまな情報を地球に送り続けています。ルフはその画像情報の角度や色彩をデジタル処理で加工することで、このはるか彼方で火星を見つけるレンズを通じた「風景写真」の可能性を探ります。

※本展では「ma.r.s.」シリーズの3D作品も展示されます。

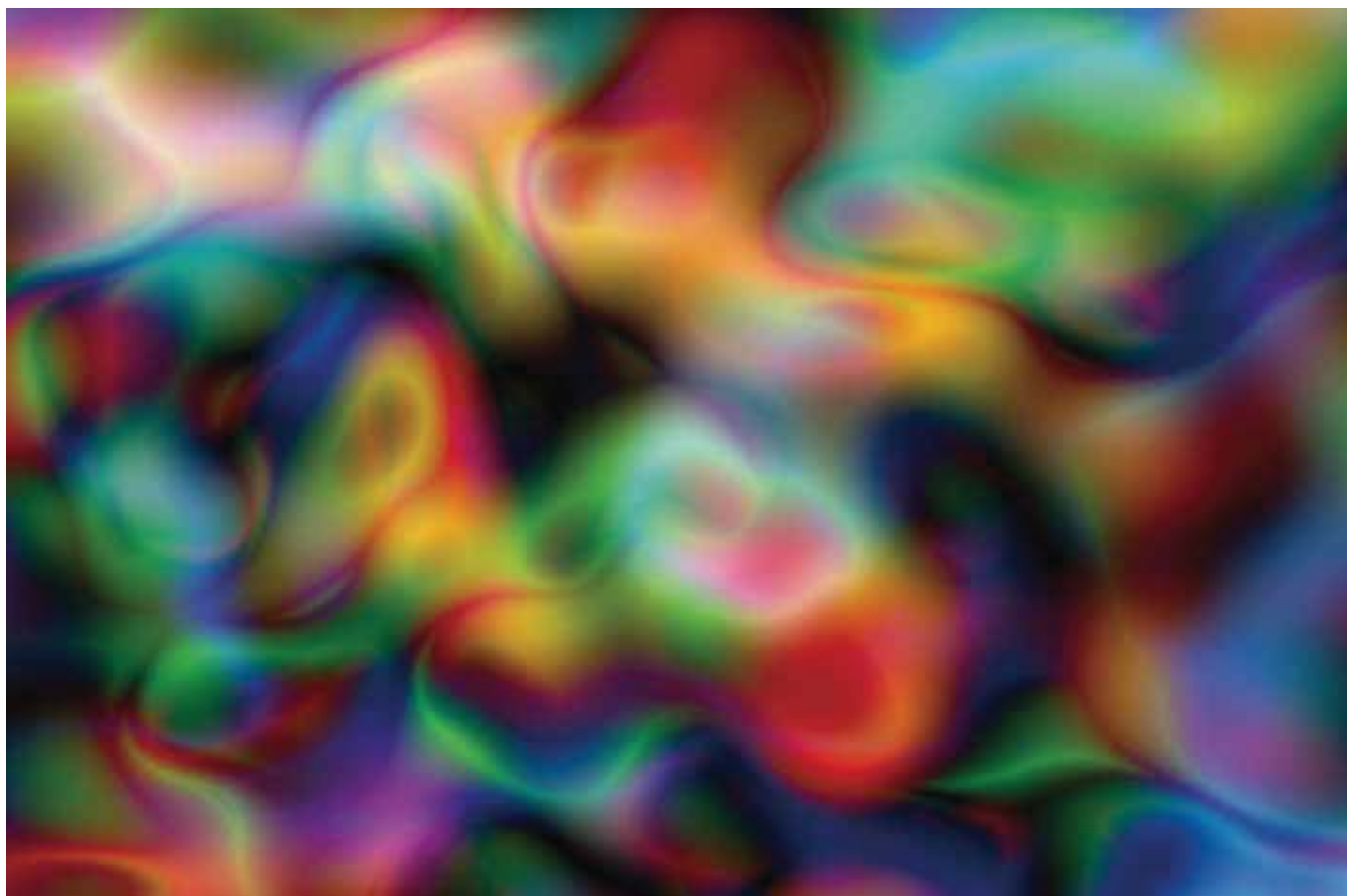
《ma.r.s. 19》2011年
C-print, 255×185cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



photogram

このシリーズのタイトルとなっている「フォトグラム」とは、1920年代後半にモホイ=ナジ・ラースローらによって開発された写真技法のひとつで、カメラを用いず感光紙上に物体を置いて直接露光し、その影や透過する光をかたちとして定着させる技法です。ルフは2012年よりこの技法を用いた作品制作に取り組みはじめました。従来のフォトグラムではやり直しがきかず、モノクロームの表現に限定されるのに対して、かねてより作品制作にデジタル技術によるマニピュレーションを導入していたルフは、コンピューター上のヴァーチャルな「暗室」で物体の配置と彩色を自在に操作し像をつくりあげています。

《phg.12》2015年
C-print, 185×310cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



Substrate

インターネット上に溢れる、もはや計測することすら不可能な量の画像は、何らかの現実を表象しうるのでしょうか。それとも単にRGB3色の画素の組み合わせがつくる視覚的な刺激にすぎないと言えるのでしょうか。

ルフはネット上に氾濫する匿名のポルノグラフィに着目し、「nudes」シリーズの制作をはじめましたが、このシリーズではさらに「イメージ」の解体へと踏み込んでいます。日本の漫画やアニメから取り込んだ画像に原形がわからなくなるまでデジタル加工を繰り返し、画像から意味や情報を剥ぎとっています。

《Substrat 31 III》2007年

C-print, 186×268cm

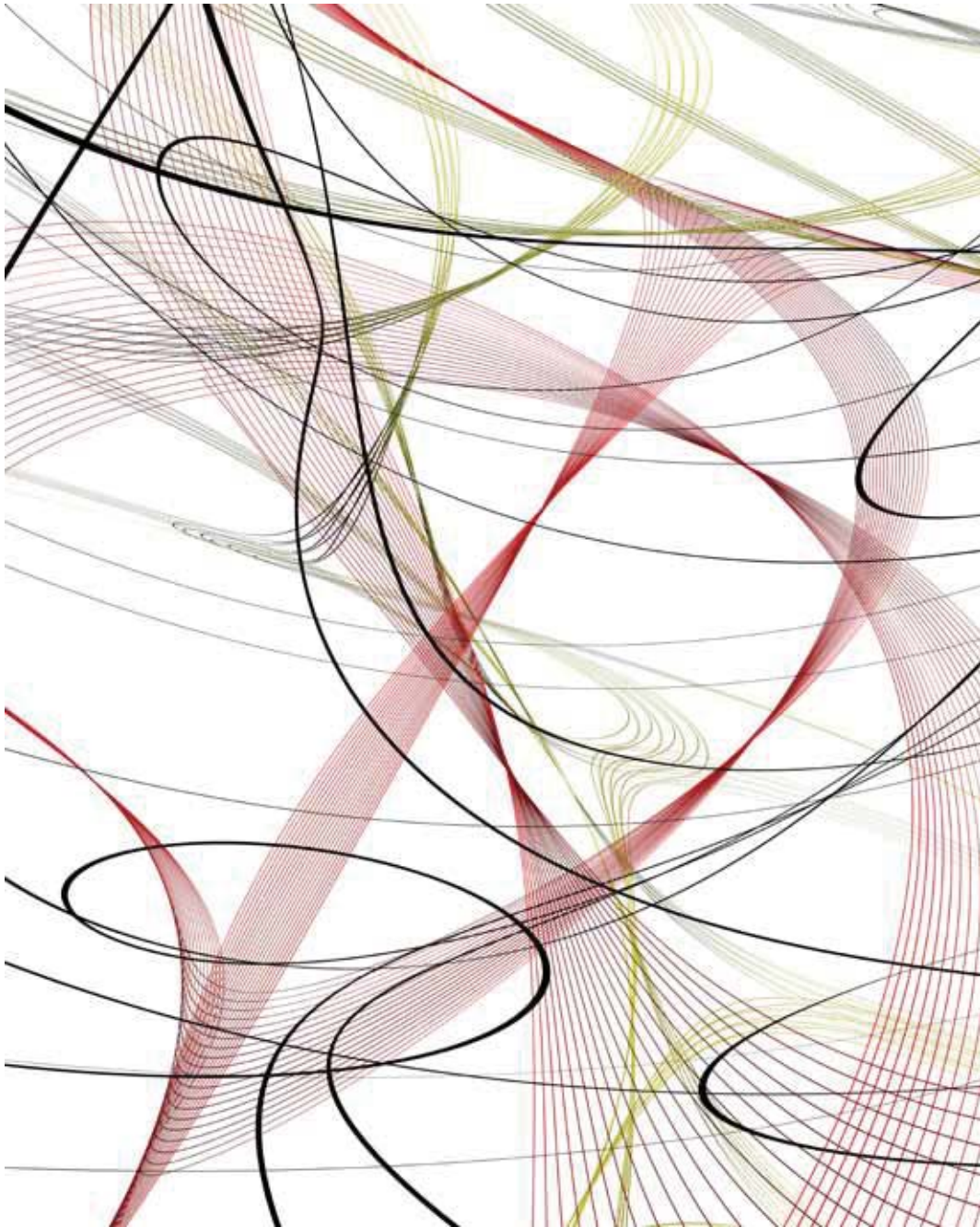
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



jpeg

「nudes」や「Substrate」シリーズと並んで、デジタル画像の解体が主題となっていますが、このシリーズではそうしたデジタル画像がもっている「構造」への関心に加わっています。シリーズ名の jpeg とはデジタル画像の圧縮方式のひとつで、現在、全世界で使用されもっとも標準的なフォーマットの名称です。圧縮率を高めすぎるとブロックノイズが発生し、画面がモザイク状になってしまうという、この画像フォーマットの特徴を用いて、画像の構造そのものを視覚化しています。

《jpeg ny01》2004年
C-print, 256×188cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016



cycles

2008年より制作がはじめられたこのシリーズでは、ルフの関心は数学や物理学へと広がっています。イギリスの物理学者ジェームズ・クラーク・マクスウェル(1831-1879)の著した電磁気学の研究書の中に収められていた銅版画による電磁場の図版に触発されたルフは、さまざま数式がつくる線形を3Dプログラムによって再現し、コンピューター上の3次元空間で再構成しました。ルフによって平面作品へと変換された、こうした曲線の複雑な組み合わせは、惑星の軌道のようにも、あるいは抽象的なドローイングのようにも見えます。

《cycles 3075》2009年
Inkjet print, 256×206cm
©Thomas Ruff VG Bild-Kunst, Bonn 2016

東京会場

会期：2016年8月30日(火)―11月13日(日)

*月曜休館。ただし9月19日、10月10日は開館し、9月20日(火)、10月11日(火)は休館。

開館時間：午前10時―午後5時 毎週金曜日は午後8時まで。*入館は閉館の30分前まで

会場：東京国立近代美術館(千代田区北の丸公園3-1)

<http://www.momat.go.jp/>

お問い合わせ＝ハローダイヤル 03-5777-8600

主催：東京国立近代美術館, 読売新聞社, ぴあ, WOWOW

観覧料	当日	前売	団体(20名以上)
一般	1,600円	1,400円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	800円	600円	500円

金沢会場

会期：2016年12月10日(土)―2017年3月12日(日)

*月曜休館。ただし1月2日は開館し、1月10日(火)は休館。12月29日―1月1日休館。

開館時間：午前10時―午後6時 毎週金・土曜日は午後8時まで。*入館は閉館の30分前まで

会場：金沢21世紀美術館(金沢市広坂1-2-1)

<http://www.kanazawa21.jp/>

主催：金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団], 読売新聞社

観覧料	当日	前売	団体(20名以上)
一般	1,000円	800円	800円
大学生	800円	600円	600円
小中高生	400円	300円	300円

展覧会公式ホームページ <http://thomasruff.jp>

プレス・取材に関するお問い合わせ先

「トーマス・ルフ展」広報事務局(ウインダム内)

担当：沼澤, 新山

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F

TEL. 03-6661-9602 FAX. 03-3664-3833

e-mail: ruff2016@windam.co.jp